

追悼 マグダ・オリヴェーロ

土屋 博

文語日誌（平成二十七年二月二十三日）

昨年九月、永らく小生の敬愛せるイタリアの大ソプラノ歌手、マグダ・オリヴェーロ、ミラノにて逝去す。享年百四歳なり。彼女の名、大手レコード會社による正規録音の僅少なる故もあり、我が國にては、知る人殆ど無きかの如き状況なれども、歐羅巴の玄人筋歌劇愛好家間の評判は頗る高く、マリア・カラスにも匹敵する人氣を誇れり。

歴代プリマドンナ列傳の如き歐羅巴の洋書の類を眺むるに、オリヴェーロは常に別格の扱ひとせらるは、人々の尊敬措く能はざる様子、窺ひ知ることを得。少なくともヴェリズモ・オペラの分野にては、彼女を超越る存在は居らず。

小生も歐羅巴に駐在したる六年間に、彼女の魅力に目覺め、日本に歸りたらばオリヴェーロのものは購ふこと叶ふまじと、その百種類に及ぶ海賊版録音（レコード、CD、ビデオ）を長年月掛けて蒐集す。ジュネーヴのレマン湖畔のオペラCD専門店の髭の店主はオリヴェーロ實演の如何に素晴らしきかを熱く語りき。一旦彼女の虜とならば、脱け出すは容易ならずと覺ゆ。

彼女、一九一〇年三月ピエモンツ州はサルツツオに生まる。一九三三年のオペラ・デビュー以後伊太利の歌劇場にて活躍す。一九三七年には、プッチーニ作曲「トゥーランドット」の世界初録音にも參畫す（準主役のリュウ役）。一九四一年に實業家アルド・ブッシュ氏と結婚し、子育てのため一旦引退す。一九五一年に病牀にありし作曲家チレアより自作「アドリアーナ・ルクヴルール」の再演の主役にと懇請せられ、十年振りに歌手復歸す。以後、スカラ座を始めとする歐羅巴各地の歌劇場を席捲す。米國のメトロポリタン歌劇場にデビューしたるは、一九七五年、彼女六十五歳のときなり。役柄はプッチーニの「トスカ」。ビルギット・ニルソンの代役なりき。その際のカーテンコールの時間の長さたるや、歌劇場の歴史始まつて以來のものとなり、今や傳説の人となれり。（PONTOLÉBELよりMET實況録音のCD發賣せらる。）

八十三歳のときの「アドリアーナ」のCD録音は、作曲家直傳のもののみなれば歴史的意義大いにあり。オリヴェーロほどに年老いてなほ現役として高水準の歌唱を維持したる例は無く、まさに高齢化社會を生くる我々の範といふべし。幸ひユーチューブにて、彼女の名前を検索せば、その歌唱映像に辿りつくこと容易なれば、一度お試しあれ。

なほ、中丸三千繪氏マリア・カラス・コンクールに優勝せる際の審査委員長はマグダ・オリヴェーロ本人なりき。

参考DVD「TOSCA」(伊HARDY CLASSIC)オリヴェーロのドキュメンタリー附き。

参考文献「Magda Olivero una voce per tre generazioni」(伊AZZALI社 一九八四年刊)

我が國の長壽演者、尾張濱主（おりのはまぬし）、聖武天皇より十帝に仕へ、末の仁明天皇承和十二年（八四五）太極殿

（二月八日）及び清涼殿（二月十日）にて長壽樂を舞ふ。歳百十三とあり（メルマガ愛國百人一首参照）。